

週間市場レポート (2022年4月4日~4月8日)

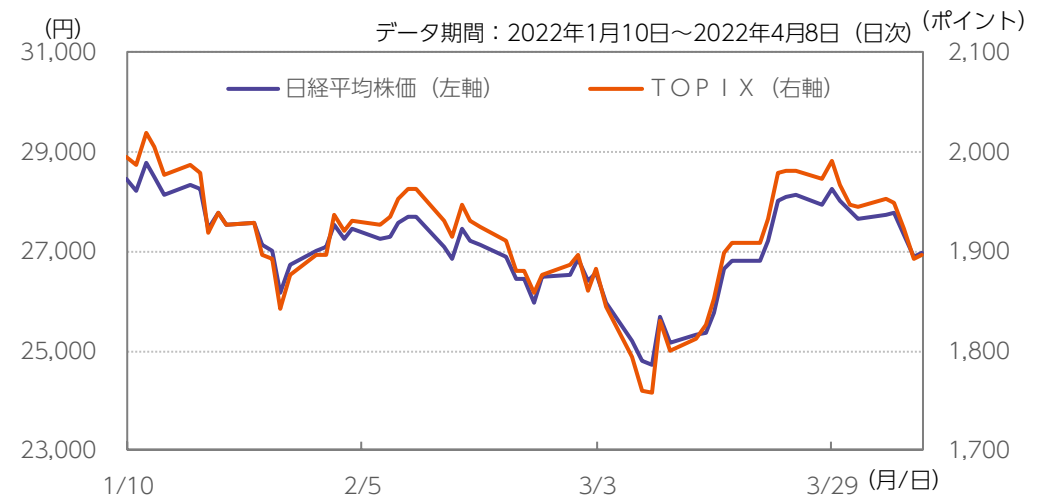
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/4/1	先週末 2022/4/8	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		27,665.98	26,985.80	▲ 2.46 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,944.27	1,896.79	▲ 2.44 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		34,818.27	34,721.12	▲ 0.28 ↓
S&P500種指数		4,545.86	4,488.28	▲ 1.27 ↓
ナスダック総合指数		14,261.50	13,711.00	▲ 3.86 ↓
ユーロ・ストックス50指数		3,918.68	3,858.37	▲ 1.54 ↓
S&P/ASX300指数		7,495.25	7,476.91	▲ 0.24 ↓
上海総合指数		3,282.72	3,251.85	▲ 0.94 ↓
MSCI AC アジア (除く日本)*		900.80	889.63	▲ 1.24 ↓
東証REIT指数		2,022.49	1,972.17	▲ 2.49 ↓
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		940.64	937.79	▲ 0.30 ↓
ASX300 REIT 指数		1,636.50	1,627.50	▲ 0.55 ↓
グローバルREIT (除く日本)*		222.41	220.28	▲ 0.96 ↓
日本10年国債 (%)		0.225	0.230	0.005 ↑
米国10年国債 (%)		2.382	2.700	0.318 ↑
ドイツ10年国債 (%)		0.555	0.707	0.152 ↑
英国10年国債 (%)		1.608	1.750	0.142 ↑
ドル/円		122.52	124.34	1.49 ↑
ユーロ/円		135.30	135.30	0.00 →
英ポンド/円		160.64	161.85	0.75 ↑
豪ドル/円		91.89	92.71	0.89 ↑
フィラデルフィア半導体指数		3,366.64	3,120.16	▲ 7.32 ↓
WTI原油先物 (ドル)		99.27	98.26	▲ 1.02 ↓
CRB指数		293.18	298.21	1.71 ↑

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

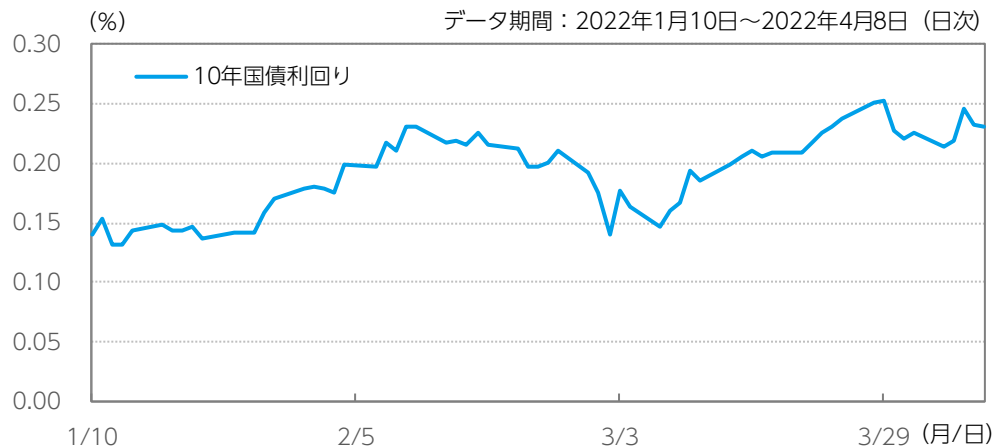
日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落しました。新年度入りにもともなう資金流入期待や、米国株式市場が上昇した流れを受け、週初は4営業日ぶりに上昇しました。その後は、米金融当局のハト派（金融緩和推進派）で知られる理事のタカ派（金融引き締め推進派）的な発言を受け米国株式が下落すると、国内市場でも投資家のリスク回避の売りが進みました。6、7日の2日間の下げ幅が900円近くであったことから、週末は自律反発狙いの買いが入ったものの、上値では利益確定売りも出やすく、小幅な上昇にとどまりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

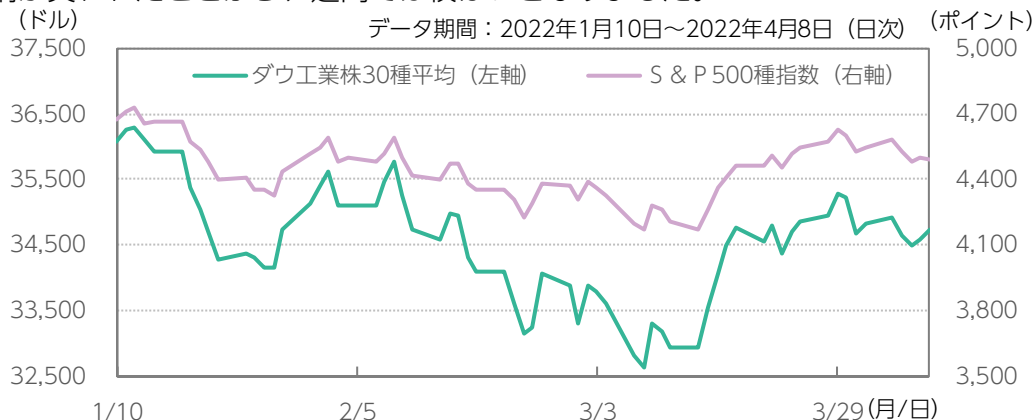
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。
日銀が買い入れオペ（公開市場操作）で金利上昇を抑える一方、FRB高官が保有資産の縮小を5月にも開始するとの見通しを示したことで、米長期金利が大幅上昇すると、国内金利も大幅上昇する場面もあり、週間では国内金利はほぼ横ばいとなりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

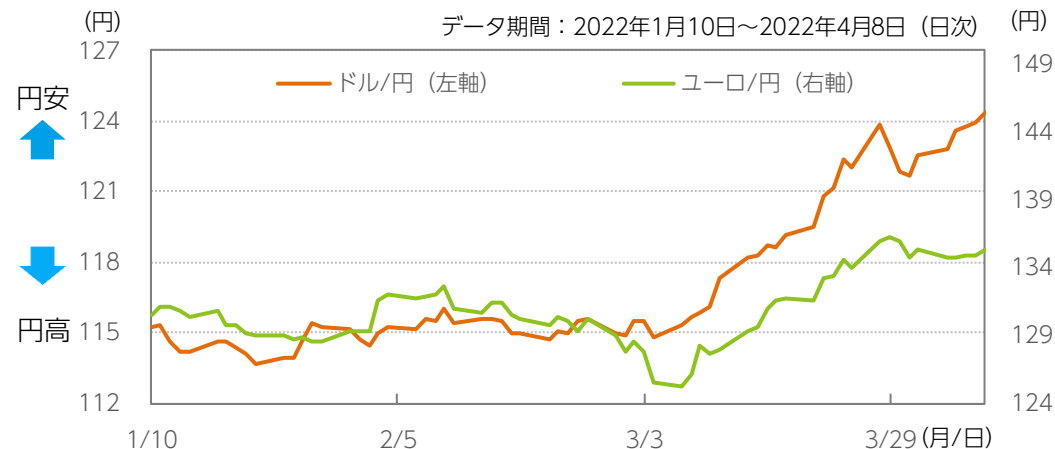
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で横ばいとなりました。
金利上昇がやや一服し先週まで売りが先行していたグロース（成長）株を中心に買い戻しが入り、週初は上昇しました。その後、FRBのブレイナード理事のタカ派的な発言を受けて米長期金利が大幅上昇すると、割高感が意識されやすいグロース株主導で下落したものの、週末にかけて、これまで売られていたハイテク株の買い戻しが進んだことや、業績に左右されにくいディフェンシブ銘柄が買われたことから、週間では横ばいとなりました。



出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。
FRBのブレイナード理事が金融引き締めに向きな発言をしたことにより、米長期金利が上昇し、日米の金利差拡大を意識した円売り・ドル買いが進みました。



5) 今週の見通しについて

先週の国内株式市場は、米国の早期金融引き締めが意識され、日米両市場ともに下落しました。

6日（水）にFRBが公表した3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨で、保有資産の縮小が早ければ5月から開始されることで合意したことが明らかとなりました。前日5日（火）の講演で、FRBのブレイナード理事が『かなり急速な縮小を想定している』と述べていたこともあり、議事要旨はよりタカ派的な内容と受け止められ、株式市場では投資家のリスク回避姿勢が強まりました。米国の原油戦略備蓄の放出表明に続き、国際エネルギー機関（IEA）加盟国が合計1億2,000万バレルの備蓄を放出する見通しとなったことから、原油価格（WTI原油先物）は1バレル＝100ドルを下回り、足元では95～97ドル台で推移しています。

今週より国内外の主要企業の決算が本格化するため、株式市場では好業績への個別銘柄の物色姿勢が強まりそうです。一方、12日（火）に公表される3月の米消費者物価指数が市場予想を上回る大幅な伸びとなった場合は、FRBの金融引き締め加速がより意識され、投資家のリスク回避姿勢の強まりから株式市場は下落する可能性もありそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>